

会報・案内

平成16年度第7回理事会議事録

日 時：平成16年10月27日(水)
 場 所：京王プラザホテル 4Fけやき 14:00～17:00
 出 席：石垣武男，大友 邦，隈崎達夫会長，久保敦司
 杉村和朗，田村正三，西谷 弘，早淵尚文
 本田 浩，平岡真寛，松井 修，宮坂和男
 山田章吾各理事
 伊藤勝陽，檜林 勇各監事
 欠 席：池田 恢，中村仁信各理事

議 題

1. 前回議事録の承認
 2. 第64回日医放総会について
 3. 専門医更新者および新規学術集会認定単位について
 4. 会計について
 5. 医学物理士試験結果について
 6. 放射線治療の品質管理に関する委員会から
 7. 日本医学放射線学会会誌について
 8. 泌尿器学会との合同研究会について
 9. ICRP会議について
 10. 基本領域学会による連絡会議について
 11. 研究助成金応募者について
 12. 第42回秋季臨床大会会長について
 13. 全国MRI装置施設設置における放射線科医勤務状況に関する調査について
 14. 会告の承認
- 11月号第17回医学物理士認定試験結果
 新規学術集会認定申請単位決定等のお知らせ
 第19回腹部放射線研究会

報告事項

1. 委員会からの報告

議 事：

1. 前回議事録の承認
 第6回理事会議事録(案)を承認した。
2. 第64回日医放総会について
 石垣会長より演題の登録状況，および準備の進捗状況，総会学術大会企画，特別・招待・教育講演等について報告がなされた。また，海外より演題申し込みが出されたのでInternational Sessionを設けることとした旨の報告がなされた。
3. 専門医更新者および新規学術集会認定単位について
 平成16年度放射線科専門医更新追加認定者についての報告がありこれを了承した。また，新規学術単位についての報告があり会告に掲載することが了承された。

4. 会計処理について

隈崎会計担当理事より平成16年度専門医認定試験事業についての中間会計報告がなされた。専門医認定試験事業については，諸費用が未払いのものもあり最終的な収支は出せないが，同事業については今期黒字決算になる見込みである旨報告がなされた。また，学会への新入会者が昨年の同時期より減少傾向にあること，同じように購読会員の減少がみられること，日本医学放射線学会雑誌への広告減少など，収入の予算が当初予定されていた額より減少が見込まれる旨の報告がなされた。

5. 第18回医学物理士試験結果について

山田理事より平成16年10月3日に行われた第18回医学物理士認定試験結果について123名が受験，うち80名を合格とした旨報告がなされた。また，医学物理士への申請については，平成16年度合格者のうち58名が申請，また昨年以降の合格者から9名が申請，合計で67名が平成16年度医学物理士として申請，この申請内容について10月26日開催の医学物理士認定委員会で審査を行った結果，62名を平成16年度の医学物理士として認定したい旨の報告があり，これを承認した。

6. 放射線治療の品質管理に関する委員会から

早淵担当理事より放射線治療関連学会及び団体(日本放射線腫瘍学会，日本医学放射線学会，日本医学物理学会，日本放射線技術学会，日本放射線技師会)で構成された委員会で継続審議されている放射線治療における医療事故防止のための安全管理体制の確立に向けての提言にむけての中間報告のまとめについて資料に基づき説明がなされた。また，委員会では，具体的な対策の一つとして放射線治療品質管理士制度を創設することとなった旨報告がなされ制度内容について資料に基づき説明がなされた。この内容は会報及びホームページに掲載することとした。

7. 日本医学放射線学会雑誌について

継続審議事項である日本医学放射線学会雑誌の英文誌発行についてシュプリングー東京から出された案について説明がなされた。この件は他社の状況なども加え，条件内容など検討しながら継続審議事項とする。

8. 泌尿器学会との合同研究会について

杉村理事より日本泌尿器科学会，日本医学放射線学会，日本放射線腫瘍学会の合同による泌尿器腫瘍放射線研究会(GUTR)について，準備委員会を立ち上げることとなった旨の報告がなされ，準備のための運営委員会に日本医学放射線学会側から支援を頂きたい旨要望がだされ了承された。

9. ICRP会議について

平岡理事より10月10日～14日に開催されたICRP委員会の報告がなされた。

10. 基本領域学会による連絡会議について

遠藤理事長より日本内科学会，日本外科学会，日本病理学会，日本法医学会が中心となり提案された診療行為に関連した患者死亡の届出についての共同声明内容について，基本領域学会(医学放射線学会も含む)が賛同した件につき説明がなされた。この件につ

いては学会としても医療事故防止委員会が中心となり検討していくこととした。

11. 研究助成金応募者について

宮坂理事より今年度は8件の応募があり選考委員会で審査の結果、5名の会員の推薦が出された旨の報告がなされ、理事会で検討後、選考委員会から推薦があった中島崇仁君、巽光朗君、近藤浩志君、大田信一君、西野水季君以上5名が承認され、受賞者はホームページで公表することが了承された。また、今年度より文部科学省の科研費応募資格が見直されたので学会の研究助成応募者に関する規定についても応募枠を拡げるなど見直しを行うこととした。

12. 第42回秋季臨床大会長について

九州地方会より早淵尚文君(久留米大学)を推薦したい旨の提案が出されこれを了承した。この件については来年開催の総会に提案する。

13. 全国MRI装置設置における放射線科医勤務状況に関する調査について

大友理事より全国MRI装置設置における放射線科医勤務状況に関する調査を行った件について中間報告がなされた。放射線科医の現状把握のために活用すべきである等意見が出され大友理事が中心となり検討することとした。

14. 会告の承認

- 11月号 第16回医学物理士認定試験結果(予定)
- 新規学術集会認定申請単位決定等のお知らせ
- 第19回腹部放射線研究会

報告事項

宮坂国際交流担当理事よりカナダのモントリオールで開催されたICR 2004についての報告がなされた。参加者は80国、2,500名以上、2006年は南アフリカ連邦共和国で開催予定。ECRでの日本医学放射線学会の展示、第64回日医放総会にECRの展示、韓国研究者による講演などについて報告がなされた。

平成16年度第2回将来計画委員会議事録

- 日時：平成16年10月28日(木)12:00~13:00
- 場所：京王プラザホテル
- 出席：早淵尚文委員長、芦澤和人、油野民雄、江原 茂、遠藤真宏、大川元臣、蒲田敏文、桑原康雄、阪口 浩、菅 一能、清 哲朗、高橋元一郎、沼口雄治、廣田省三、角藤芳久
- 欠席：本田 浩、副委員長、石口恒男、大淵真男、岡崎正敏、佐藤守男、芝本雄太、竹田 寛、本田憲業

議 事：

- 1. 今期委員の自己紹介と取り上げたい事項について
出席された各委員より当委員会で今期検討してもらいたい事項について以下のような意見が出された。
(1)放射線科への入局者数が少ないので、増やすためにはどうすればよいか。

- (2)大学病院のスタッフ数再検討という話があり、放射線科医のポストを減らされる可能性が出てきた(各科ごとの収入で見られると放射線科は厳しい)。何か対策を講じる必要がある。この件については、当委員会でアンケート調査を実施することになり、菅先生に原案をお願いした。
- (3)読影料などの診療保険点数の引き上げ。
- (4)マスコミ対策について~もっとうまく利用するべきである。自分の仕事等はホームページやメディアを通して積極的に紹介する。
- (5)医学物理の世界も急激に変化してきており、放射線医学に貢献しうる医学物理士の育成が急務である。
- (6)秋季大会について多彩な意見がだされた。
- (7)学会のホームページを充実させれば入局者数増加につながるのではないか?
- (8)卒前教育としては放射線診断は大変人気があるのに卒業すると他科へ入局してしまう。初期研修後に放射線科に入局してもらうための方策を講じる必要がある。
- (9)沼口委員より「放射線科の将来について夢を語らなければだめだ。ペシミスティックな意見を言う人が多い。アメリカ流にやるか日本流に独自路線に行くのか、学会としての方針をしっかりとしないとだめである。診断医の質を高くしなければならぬ。修練機関として不適切な大学には学会から厳しく言わなければならないなどの発言があった。

2. 今期の当委員会の活動方針

- (1)大学病院の放射線科ポスト削減問題の実態調査と放射線科の入局者を増やすための方策について検討する。具体的には先ずアンケート調査を実施する。
- (2)秋季大会の運営方法について具体的に検討する。

放射線事故防止委員会報告

- 期 日：平成16年10月28日
- 場 所：京王プラザホテル本館42階武蔵
- 出 席：田村正三委員長、本田憲業、鳴海善文、市川太郎、早川克己、水口昌伸各委員
- 欠 席：山田章吾、今井 裕、渋谷 均、廣川 裕、福田国彦各委員

- 1. 事故防止委員会副委員長を埼玉医科大学、本田教授、大阪大、鳴海教授におねがいすることになった。
- 2. 異常死体問題に関する4学会合同ワーキンググループおよびその活動について本田憲業教授から説明があった。厚生省案ではモデル事業を行う5地区では、異常死体について医療機関は「死因を特定できないので専門家に調査をゆだねる」ことになる模様である。当委員会として、これに対応するため放射線関係では代議員のなかから、予め地方会別に6から7名の専門家をリストアップしておくよう提言する。
- 3. 今後の活動方針については、放射線事故防止のための指針の改定、造影検査の同意書案の提示などが挙げられた。

平成16年度第2回広報委員会議事録

日時：平成16年10月29日(金)12:00～13:00
 場所：京王プラザホテル
 出席：西谷 弘委員長，安藤 裕，江本 豊，大野和子
 岡田 進，角藤芳久，金澤 右，徳植公一
 牧田幸三，丸橋 晃
 欠席：伊藤 亨，角谷真澄，笹井啓資，佐々木雅之
 瀬戸 光，徳植公一，富口静二，本田憲業
 水沼仁孝

議 題

1. 委員紹介

- ・委員の自己紹介が行われた。
- ・安藤委員を副委員長に任命し，了承された。

2. ホームページについて

- ・基本的構成は当面現状維持とし，情報はすみやかに載せていくことを方針として今後も進めていくことを申し合わせた。
- ・英文のページの見直しを行う。
- ・被ばくに関するQ&Aを開設してはどうかとの意見があり，大野委員を中心に検討することにした。
- ・一般者からの治療に関する質問について，特別にメールアドレスを設けることにし，質問が届いた場合は，『質問を受け付け，専門医から後日回答する』旨の返事をとりあえず発信することにした。
- ・若手医師に放射線科の内容を理解してもらおうページを設けることにした。

当面はいくつかの病院のリクルートのページを掲載してはどうか？

各大学や病院にアンケートを実施することにした。

・学会への問い合わせメールにジャンクメールが多いので，変更することにした。ただし，しばらくは混乱を招くので，現状のメールアドレスも引き続き採用するが，ホームページに載せるメールアドレスは画像にして対応することにした。

3. メーリングリストについて

- ・10/31付にて第77号メールマガジンを発信することが委員長より報告された。
- ・オピニオンの活用については，不要なものが発信されることが多いが，取捨選択については委員が3ヶ月単位でチェックを担当していくことにした。

11月～1月 江本委員，大野委員，岡田委員，角藤委員

2月～4月 角谷委員，金澤委員，笹井委員，佐々木委員

5月～7月 瀬戸委員，徳植委員，富口委員，本田委員

8月～10月 牧田委員，丸橋委員，水沼委員，伊藤委員

4. 英文パンフレットについて

- ・海外向け広報活動として継続して行っていくことにした。

5. その他

- ・次回委員会の開催は基本的に春の総会時とし，その間はメールでのオンライン会議とする。ただし，必要が生じれば，集まることにした。

日医放健保委員会・JCR保険委員会
IVR健保委員会合同会議報告

日時：2004年10月29日(金)12:00～13:00
 場所：京王プラザホテル
 出席：本田 浩，足立秀治，石橋忠司，井田正博
 井上佑一，煎本正博，猿渡啓吾，日下部きよ子
 田中良明，築根吉彦，辻本文雄，似鳥俊明
 蓮尾金博，星博昭，星川嘉一，細矢貴亮
 水沼仁孝，村中 光，望月輝一
 吉川 淳(五十音順)

1. 遠藤理事長より挨拶

2. 水沼委員の司会で議事進行

3. 委員構成の確認

日医放健保委員 各地区代表

専門医会・医会保険委員

各関連学会健保委員(IVR学会，MR学会，超音波学会など)外保連委員，内保連委員

4. 平成17年度の改正要求はメールにて11月中に水沼委員へ提出する

5. 平成18年度診療報酬大改訂要求に向けて

画像診断管理加算については，DPCからの非包括化と点数増点(病理診断250点)を要求する。そのために今後行うべきことが次のごとく確認された。総論的には放射線科専門医が，他科の医師に出来ない放射線科専門医の保証する内容。具体的には下記の4つを柱として学会として統一を図る

a. 医療被ばく管理

b. リスクマネジメント，インフォームドコンセント

c. プロトコール作成

d. セカンドオピニオンに耐える画像診断報告書，『起承転結型(時系列)』

上記a，bについては公立甲賀病院坂本 力先生に原案作成を依頼，dは水沼委員が原案作成。さらに「画像診断」の定義が必要であり，原案を水沼委員が作成し，健保委員会のメールにて11月中に検討する。

煎本委員より外保連への提出を考え必要経費の算定が必要との意見があった。

画像診断管理加算の要求に向けて放射線科医として行うべき読影について欧米方のフィールド分けをするのはどうか？との意見も出た。

6. 厚労省への要求ルートについて

a. 外保連，内保連

b. 日医疑義解釈委員会

c. 厚労省の3から要求していく

7. 今後の保健活動についてはJRCとの関係も深めていく

8. 画像診断管理加算以外の要求については，17年度分は11月中に新規，改正等を明記し，メール会議で検討する。18年度分については来年の日医放総会までに検討する

9. 内保連生体検査試案について

基本的に外保連用に作成した試案のまま，大きな見直しはしない

10. 混合診療について

放射線治療よりIMRT, 重粒子線治療, 陽子線治療が案として挙げられた。

遠藤理事長より日医放としては混合診療に積極的には賛成しない態度と発言

11. 電子情報委員会より画像モニターの薬事承認については反対の方針との報告があった。

用語委員会報告

日 時：平成16年10月29日

場 所：京王プラザホテル

出 席：林 那昭, 兼平千裕, 古寺研一, 上甲 剛

欠席者：荒木力, 興梠征典, 坂田耕一, 阪原晴海, 佐々木雅之, 蓮尾金博

1. 用語委員会副委員長を興梠征典(産業医科大学), 福田国彦(慈恵医大)におねがいます。

2. 放射線診療用語集第4版は電子化して日医放のホームページにのせる方針出ることが説明された。

3. 第3版のデータは金原出版に電子データで提供をお願いし, 委員は担当分野を決め専門分野別に手分けして収録語数の増加に勤める。

4. 関連学会(放射線腫瘍学会, 磁気共鳴学会など)の用語集との合併をお願いする。

5. 他学会との用語の摺り合わせについて, 整形学会から申し入れがある。その他の学会については放射線診療用語集第4版をみてとりくむ。

第433回日本医学放射線学会編集委員会議事

日 時：2004年12月8日 16:00~18:00

出 席：久保敦司理事(委員長), 本田 浩理事, 池田 恢理事, 青木茂樹, 稲田陽一, 窪田宜夫, 牧田幸三, 竹原康雄, 道岸隆敏

欠 席：井上登美夫, 植松 稔, 笹井啓資, 原田潤太, 細井義夫, 蓑原伸一

和文雑誌

投稿と査読状況(2004年1月~12月)の報告

2004年1月から12月までの投稿数は, 33編で, うち採用は13編, 不採用は2編, 再投稿待ち13編, 確認中5編であった。

2005年1月号の論文掲載は, 巻頭言, 総説2編, 原著4編, 研究速報1編, 特集記事1編を予定している。

巻頭言の依頼候補者の選定を検討した。

総説の依頼状況として, 承諾は6編であることが報告された。

優秀論文賞の選定は, 邦文誌, 英文誌の掲載分を対象として, 編集委員に論文の点数による評価を依頼, 集計ののち優秀論文賞の候補を決定する,

2005年の和文雑誌の発行については, 年間4誌とし, 1月, 4月, 7月, 11月に発行することを決めた。これに伴い会告掲載に

ついて, 計画的に記事の作成を行うよう配慮することとなった。また, 今後発行する3号について特集企画を立案することを決め, 具体化の検討を行うこととなった。

Radiation Medicine誌

投稿と査読状況(2004年1月~12月)の報告

2004年1月から12月までの投稿数は, 106編, 採用は43編, 最終審査待ち, 再投稿待ち26編, 査読中14編, 取り下げなど4編であった。また, 2003年から2004年12月までの投稿論文の統計が報告された。

2005年2月号に総説論文を掲載する旨の報告があった。

カラー印刷料金等について, 投稿規定に明示することになった。

2005年のRadiation Medicine誌の発刊は8号とする。発行スケジュールは, 和文誌を発行しない月とする。

オンラインによる投稿・査読の実施について, 理事会で検討することとなった。

**日本腹部造影エコー・ドプラ
診断研究会開催のお知らせ**

期 日：2005年4月2日(土)

場 所：愛媛県 県民文化会館

住 所：〒790-0843 松山市道後町2-5-1

申し込みならびに問い合わせ先

当番世話人：松山城東病院 内科 平田 真美

第6回肺RFA談話会開催のお知らせ

期 日：2005年6月25日(土)

場 所：群馬大学医学部保健学科 ミレニアムホール

住 所：〒371-8511 群馬県前橋市昭和町3-39-2

申し込みならびに問い合わせ先

当番世話人：群馬大学医学部附属病院

画像診療部 小山佳成

e-mail：onoff@showa.gunma-u.ac.jp

TEL：027-220-8612

FAX：027-220-8611